

## 令和7年度 学校評価（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	・「自分の可能性をきりひらく子を育てる」の視点から、個別教育計画を中心に据えた各部門課程における個々の児童生徒の教育活動の充実を図る。	①個別教育計画の目標設定と手立ての的確な設定に基づいた、個々の児童生徒に応じた指導実践を行う。  ②児童生徒の個々の目標や状況に応じたICTを活用した学習活動の充実を図る。	①アセスメントの結果や、作成されてきた手引き等を活用する流れを確立して、チームでよりよい目標設定と手立ての工夫について検討・実践を行う。  ②様々なICTを活用した実践例を部門内や学校全体で共有して、学習グループや個別学習の状況に応じた指導の工夫を積み重ねる。	①アセスメントや手引き等を有効に活用できる流れを確立して、チームとして目標設定や手立ての検討を行い、個々の児童生徒の指導の充実につなげられたか。  ②ICT活用のチームや学校全体での共有をすすめることができたか。また個々の指導の工夫に繋げることができたか。
2	(児童)生徒 指導・支援	・「自分の可能性をきりひらく子を育てる」の視点から、すこやかにしなやかにたくましく生きる力の育成を組織的に行う。	①児童生徒の主体的な学びを引き出す指導・支援をチームで幅広い視点で実践していく。  ②専門職(自活・養護・栄養)および支援担当のチームと各指導グループの計画的な連携を通して、幅広い視点を持った指導支援の充実を図る。	①各授業グループ単位で、主体的な学びを引き出す視点での授業の工夫を模索して、校内研究等を通して指導の検証と共有を図る。  ②専門職および支援担当のチームが計画的かつタイムリーに支援・指導の検討や実践に携る流れを設定する。またニーズに応じた研修を実施する。	①各授業グループ単位で、主体的な学びを引き出す視点での授業の工夫を行い、校内研究等を通して検証と共有を行えたか。  ②専門職および支援担当のチームが計画的に、また必要に応じた場面で支援・指導の検討や実践に携る流れを確立できたか。またニーズに応じた研修等が設定できたか。
3	進路指導・ 支援	・「自分の可能性をきりひらく子を育てる」の視点から、小中高と一貫した進路指導・支援の充実と個別最適な進路学習を実現する。	①小中高の各年代の児童生徒が、それぞれの目標に応じて、新しいことへチャレンジする気持ちを育てる指導を行う。  ②小中高の段階に応じた適切な情報共有を保護者に行い、保護者と共に段階に応じた、一貫性のある進路指導・支援を行う。	①段階に応じた適切な課題の提示を行い、自己選択・自己決定の場面を設定して、児童生徒の意欲を引き出す工夫を積み重ねる  ②保護者に向けて、進路支援についての学齢に応じた情報共有を積極的に行い、共に考えていくための手立てや工夫を模索する。	①段階に応じた適切な課題の提示を行い、自己選択・自己決定の場面を設定して、児童生徒が新しいことにチャレンジする指導が行えたか。  ②保護者に向けて、進路支援についての学齢に応じた情報共有と共に考えていくための手立ての工夫を行うことができたか。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「児童生徒を地域のフロントへ」の視点から、従前のセンター的機能を礎として、地域の学校、教育行政、地域資源等の連携・協働により、児童生徒が地域の中で暮らす力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①オンラインも含め、近隣の学校や地域との交流および共同学習について、年間計画に位置付けた活動を活性化させると共に、新たな取組を積極的に模索する。</li> <li>②地域資源を活用した学びや学校の学習活動を地域に発信する取組について、年間計画に基づいた活動を活性化させると共に、新たな取組を積極的に模索する</li> <li>③センター的機能の充実につなげる取組として、市内小中学校職員と学び合える機会を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各部門課程とともに進むサポーター部会が連携して計画的な活動の拡大を推進する。また実施結果を積極的に発信・共有して新たな取組に繋げる。</li> <li>②各部門課程とみなで育てるサポーター部会が連携して計画的な活動の拡大を推進する。また実施結果を積極的に発信・共有して新たな取組に繋げる。</li> <li>③小中学校教員体験会の取組の定着と充実を図り、情報交換や連携を深める機会とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各部門課程とともに進むサポーター部会が連携して活動の充実と拡大を行うことができたか。また積極的な発信が行えたか。</li> <li>②各部門課程とみなで育てるサポーター部会が連携して活動の充実と拡大を行うことができたか。また積極的な発信が行えたか。</li> <li>③小中学校教員体験会の取組が定着し、より充実して、情報交換や連携を深める機会となったか。</li> </ul>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で安心な教育環境の整備をさらに推進するとともに、緊急時、災害時の対策を整備する。</li> <li>・教育活動の充実化のために、より働きやすい職場環境の整備を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①安全で安心な教育環境の整備に向けて、考えられる様々なリスクを想定しての対応方法を確認して整備する。</li> <li>②業務改善のアイデアを様々な視点から収集して、出来ることから改善を積み重ね、働きやすい職場環境作りをすすめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①部門課程での学習活動や各グループ業務において、付帯して考えられるリスクの想定を的確に行い、マニュアルや研修・訓練等に反映させて対応を整備する。</li> <li>②研修会やアンケート、衛生委員会等を通して、広く職員から業務改善につながるアイデアを収集して、関係部署で出来ることを検討するとともに、主体的に職場改善に取り組む職場の雰囲気作りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①様々な学習活動や業務において、考えられるリスクの想定を丁寧に行い、マニュアルや研修・訓練等に反映させて対応を整備することができたか。</li> <li>②研修会やアンケート、衛生委員会等を通して、業務改善につながるアイデアを広く収集して、検討と改善につなげることができたか。</li> </ul>